



テニスからゴルフに

にしはら耳鼻咽喉科 平良 章



若い頃はテニスに夢中だった。30代までは必死に練習をして、年に数回は県大会等にも出場した。アスリート気取りだった。40を過ぎてからは上手くなろうという気持ちは薄れ、週に1回程度仲間と楽しくプレーするだけで満足だった。このペースで生涯スポーツとしてテニスをずっと続けていくつもりだった。一方ゴルフは、研修医時代に人数合わせて医局コンペに出る羽目になり、数回ゴルフレンジ（以下レンジ）に通っただけでラウンドした事がある。ウッドを練習する時間がなくて、アイアンだけを使って140くらい叩いた。同じ組の先輩方の冷たい視線を浴びながら、右に左に走り回り、終わった頃には身も心もボロボロになっていた。性に合わないと思い、明日から手術を教えて貰えなくなるのを覚悟の上でゴルフに誘ってくれたM先生に、「有難う御座いました。もう金輪際ゴルフは致しません。」と宣言した。幸い手術も教えて貰えたとし、早すぎるゴルフ引退も許して貰った。その後20年近くゴルフに誘われる事も無く平穏な日々を送っていた。

平成16年10月、開業1周年を契機にクリニックの家主のO氏と調剤薬局のK氏と小生の3人で細々と模合を始めたのだが、この2人がゴルフをするのだ。毎月のようにゴルフの話が聞かされた後の模合の席で、2人が又楽しそうにゴルフの話をはじめた時、何と「俺もゴルフを始めよう！」と言ってしまった。魔が差したとしか言いようが無いが、2人は待ってましたとばかりに「それはいい事だ、健康にもいいしストレス発散にもなる。模合の日は明るいうちにゴルフをして、夜は反省会も兼ねて楽しく飲み会が出来る。最高だ、ゴルフ万歳！」という感じで大いに盛り上がっていた。翌朝、二日酔いの重たい頭を抱えながら（なんて事を口走ってしまっ

たんだ）と後悔した。2人の陰謀にはめられた、と被害妄想を抱いたりもした。数ヶ月は練習もせずに悶々としていたが、模合の度に急かされるし、自分から言い出した事なので、やらない訳にはいかなかった。前の失敗を繰り返したくなかったので、基礎から習う事にした。近くのレンジで木曜日（休診日）午前のスクールに入った。平成17年10月の事である。模合のメンバーには迷惑をかけたく無かったので、レッスンプロには「1年で100前後で回れるようになりたい。」と伝えた。少し睨まれ「まあ、そう焦らずに。」と返された。「そりゃ無理な注文だ！」と言われた気がしたが、「なにくそ、もっと早く上手くなってみせる。」などとは思わなかった。これから始めるというのにモチベーションは低かったのだ。その後2ヶ月はピッチングウェッジだけの練習だったが、なかなか上手く当たらないし、同じ事の繰り返しで少し飽きていた。木曜日は、午前中はゴルフスクールに通い夕方からはテニスをしていたが、その頃はまだテニスの方が圧倒的に楽しかった。テニス仲間にも「テニスの汗は最高だ。ゴルフは、スピード感が無いし、汗もあまりかかないからつまらん。」などと愚痴をこぼしていた。

12月も下旬になってからレンジ附属のショートコースでラウンドレッスンを受けた。これがなかなか楽しかった。長くても100ヤードちょっとのコースなので、本格的なゴルフの醍醐味を味わうことは出来なかったが、ボールがカップインする時の快感は手軽に味わえた。年が明けてからは、毎週スクール終了後にラウンドした。スクールでも8番アイアン、5番アイアン、ドライバー（他のクラブは自分で練習するように言われた）と少しずつ長いクラブを打たせて貰えるようになり、段々ゴルフの練習らしくな



リレー随筆

ってきた。この頃からスクール以外の日も、週に1, 2回はレンジに通うようになった。そして、段々テニスをサボるようになった。

浦添パブリック等で長目のコースも数回経験し、いよいよ琉球ゴルフ倶楽部でチャンピオンコースデビュー（再デビュー）となった。スクールに通い始めて半年、平成18年4月の模合の日の事である。悪夢のような20年前のラウンドの再現になるのではないかとの不安もあったが、今回はある程度の準備はしたので少しワクワクもしていた。もし駄目でも、又引退宣言してテニスに専念すればいいという気持ちもあった。

スタートホールでティーショットを打つ番が来た。ドライバーはボールが何処に飛んでいくか分からない状態だったが、取り敢えず力まずに気持ちよく振りぬく事だけを意識して振ってみた。何と、芯に当たり、真っ直ぐに飛んだ。他の2人をオーバードライブしていた。テニスで、フラット気味のファーストサーブがセンターに決まり、ノータッチエースを取った時の様な気持ち良さだった。今思えば、胸の中のテニスボールがゴルフボールに替わった瞬間だったかも知れない。しかし、ビギナーズラックが続く筈もなく、セカンドショットはダフリ、アプローチショットはトップして、大きくグリーンオーバーした。4打目で乗せて、2パットで沈めて、何とかダボで上がった。ゴルフの難しさを実感したが、ミスをして1打1打が楽しかった。20年前は考える余裕も無く、木があろうがバンカーがあろうがひたすらグリーンに向かって打っていた。今回はある程度攻め方を考え、落とし所と弾道をイメージして打てた。イメージと結果にはかなりのギャップがあったが、ゴルフをしている実感が持てた。その後は、ティーショットを曲げ、ダフリ、トップ、3パットを駆使しながらの波乱万丈のゴルフだったが、終わってみると何とも言えない爽快感だった。心地よい汗もかいていた。スコアは111だったが、前に140も叩いた者としては及第点と言って良かった。最初は、月に1回模合の日だけラウンドするつもりだったが、5月は2回、6月は3回、7月以降はほぼ毎週ラウンドしている。

練習のモチベーションも上がり、週に3回はレンジに通っている。そしてここ半年はラケットを握っていないし、テニス仲間には「引退！」を伝えた。

先日家内に「テニスよりものめり込んだよ。」と言ったら、「似たようなものよ。」と返された。笑顔だったが目は笑っていなかった。（あなたの興味の対象がテニスからゴルフに替わっただけで、結局私達はほったらかしでしょ）と言いたげだった。やばい！15世紀のスコットランド国王・ジェームス2世は、王国の防衛に従事する兵士たちが弓術の練習を怠けてゴルフに夢中になっていることに業を煮やし、ゴルフ禁止令を発布したそうである。我が家でもそろそろか？好きなゴルフの格言を最近は少し振って肝に銘ずるようにしている。2つ並べて終りにしたい。

「ゴルフはすぐには上手にならないが、いつ始めても遅すぎる事はない。（フィリップ・モンクリーフ）」

「家族サービスはすぐには上手にならないが、いつ始めても遅すぎる事はない。（平良章）」

★リレー状況

—平成16年以前掲載省略—

- 29. 仲間 司先生（県立那覇病院）Vol. 41 No.5
- 30. 新里 譲先生（沖縄赤十字病院）Vol. 41 No.11
- 31. 友利正行先生（ともしり内科循環器科）
Vol. 42 No.2
- 32. 具志一男先生（ぐしこどもクリニック）
Vol. 42 No.4
- 33. 神谷鏡子先生（かみや母と子のクリニック）
Vol. 42 No.6
- 34. 呉屋良信先生（わんぱくクリニック）
Vol. 42 No.9
- 35. 江洲浩明先生（はえばる耳鼻咽喉科）
Vol. 42 No.11
- 36. 真栄城徳秀先生（真栄城耳鼻咽喉科）
Vol. 43 No.2
- 37. 野原昌亮先生（野原整形外科）
Vol. 43 No.4